

舞鶴支援学校行永分校にようこそ

副校長 堀江 嘉明

韓国・京福大学の皆様、本日は行永分校にお越しいただき、ありがとうございます。

さて、今から25年前、1998年に日本の小渕首相と韓国の金大中大統領との間で『日韓共同宣言』が出されました。これは、両国の友好関係をさらに深めるための決意を固めたものです。これをきっかけに、様々な交流が急速に進み、2002年にはサッカーのワールドカップ日韓共同開催が実現しました。日本では『冬のソナタ』や『チャングムの誓い(大長今)』などの韓国ドラマが放映され、空前の「韓流ブーム」となりました。多くのドラマでは、韓国人の国民性や儒教倫理に基づく礼儀の正しさ、他者に対する情愛の深さを知ることができました。

2008年10月、李明博大統領の時ですが、私は全国から集まった中学校・高等学校社会科・地歴公民科教員とともにソウル大学校で3週間の研修を受ける機会がありました。大学校で大学教授から歴史、経済、文化に関する講義を受けるとともに外国語高等学校などにも訪問し、実際に授業に参加しました。「教育は人なり」のことばがありますが、韓国政府が未来を担う人材育成にかなりのエネルギーを注いでいることに大きく驚かされました。また、「水原華城」「石窟庵」「仏国寺」など半島各地の歴史的建造物などに触れ、その壮大な歴史を肌で感じることができました。

私が韓国を訪問して印象に残っている川が2つあります。一つはイムジン河(臨津河)です。イムジン河に面する臨津閣にかかる「自由の橋」にて離散家族の方々の慟哭を目の当たりにし、その「思い」をしっかりと心に刻むべきものと思いました。もう一つは洛東江です。安東河回村を訪問し、両班屋敷を見学しました。それも印象に残りましたが、洛東江の付近には一面に白菜畑が広がり、そこに深紅の夕陽がまさに落ちようとしていました。その光景はまさに日本を思い出させるものでした。

文字が「ハングル」であるか「ひらがな・カタカナ」かどうかの違いはありますが、全く同じルーツを持つものであると実感し、その後、高校の教壇にて多くの生徒にこのエピソードを折りに触れて述べてきました。

本日、この舞鶴の地も含め日本列島は好天に恵まれているようです。今朝のニュースの天気予報では半島に張り出している高気圧の影響を受けて、日本列島は好天となっているとのことでした。

この「好天」の如く、皆様にとって実りある研修となることをお祈り申し上げ、歓迎の挨拶とさせていただきます。

